

催し物のご案内

2019年度 特別展

アオバトのふしぎ  
～森のハト、海へ行く～

2019年7月20日(土)～11月10日(日)

開館時間▷9:00～16:30(入館は16:00まで)  
休館日▷9月2日(月)・9日(月)・10日(火)・17日(火)・  
24日(火)・30日(月)・10月7日(月)・8日(火)・  
15日(火)・21日(月)・28日(月)・11月5日(火)  
観覧料▷高校生以上:有料、中学生以下:無料



普段は丹沢の森にくらす草色の羽が美しいアオバトは、春から秋にかけて、毎日のように大磯町の海岸に群れで舞い降りて海水を飲む姿が確認されています。地元で30年以上も観察を続けている「こまたん」との共催により、アオバトの風変わった生態を標本や写真で紹介します。

【当日受付の講座】

- 「夏休み昆虫ひろば①」[博物館]  
8月10日(土) ①10:00～12:00 ②13:00～15:00
  - 「夏休み昆虫ひろば②」[博物館]  
8月24日(土) ①10:00～12:00 ②13:00～15:00
- 対象/幼児～成人 人数制限なし 申込締切/なし

【事前申し込みの講座】

- 「貝殻のふしぎを調べよう」[博物館]  
①ホタテ②アワビ③いろいろな巻貝  
①7月21日(日)②7月28日(日)③8月4日(日) 各10:00～15:30  
対象/小学4年生～成人 各12人  
申込締切/①7月2日(火)②7月9日(火)③7月16日(火)
- 「基本を知りたい指導者のための貝殻ワークショップ」[博物館]  
7月23日(火) 10:00～15:30  
対象/保育士・幼稚園・小学校等教諭 12人  
申込締切/7月2日(火)
- 「先生のための岩石プレパレート観察講座」[博物館]  
7月24日(水) 13:00～15:30  
対象/教員 12人 申込締切/7月2日(火)
- 「きのこさがし」[博物館および博物館周辺]  
7月26日(金) 10:00～15:00  
対象/小学1年生～中学生とその保護者 25人  
※小学1年～3年生は保護者参加必須  
申込締切/7月9日(火)
- 「展示見学ポートフォリオづくり(教員向け)」[博物館]  
7月29日(月)・30日(火) 10:00～16:30 ※2日間  
対象/教員 10人 申込締切/7月9日(火)
- 「海辺の野鳥観察会」[大磯町(照ヶ崎海岸)]  
①8月3日(土) ②9月7日(土) 各8:00～10:00  
対象/小学1年生～中学生とその保護者 各回20人  
※小・中学生とも保護者参加必須  
申込締切/①7月16日(火) ②8月20日(火)
- 「あなたのパソコンで地形を見る(教員向け)」[博物館]  
8月6日(火) 10:00～15:00  
対象/教員 12人 申込締切/7月16日(火)
- 「きのこの観察と同定」[博物館および博物館周辺]  
9月8日(日) 10:00～15:30  
対象/中学生～成人 20人  
申込締切/8月20日(火)
- 「本当は怖いアメリカザリガニ～最悪の水辺の外来種について勉強しよう～」[川崎市(麻生区はるひ野)]  
9月14日(土) 9:30～15:30  
対象/小学1年生～成人 20人  
※小学生は保護者参加必須  
申込締切/8月27日(火)
- 「川と用水路の生き物を調べよう」[開成町(吉田島周辺)]  
9月28日(土) 10:00～14:00  
対象/小学1年生～成人 25人  
※小学生は保護者参加必須  
申込締切/9月10日(火)
- 「秋の昆虫観察会」[県西部]  
9月29日(日) 10:00～15:00  
対象/小学4年生～学生・大学院生とその保護者  
※小学生は保護者参加必須 20人  
申込締切/9月10日(火)

催し物の詳細についてはウェブサイトをご覧ください。  
問合せ先:企画情報部 企画普及課

生命の星



ライブラリー通信 文人たちの博物誌⑤ 岡本太郎の巻  
太陽の塔はカラスだった？！

つちや さだお  
土屋 定夫 (司書)

芸術家の岡本太郎がカラスを飼っていたって知っていました？小鳥やオウム、あるいは鳩を飼っている人はいるでしょうけれど、自宅でカラスとなると、自分の周辺にはまず、いないでしょう。

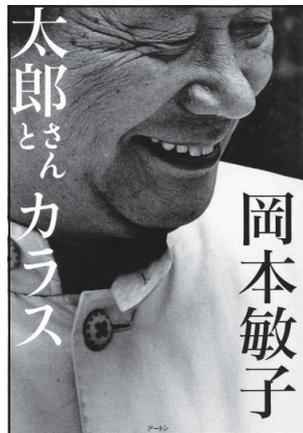
岡本は「カラスを飼っているそうですね」と聞かれると、「飼ってないよ。一緒にいるだけだ」と答えたそうです。長年、岡本の秘書を務め、後に養女となった岡本敏子は著書『太郎さんとカラス』の中で、「ペットは嫌いなのだ。動物でも植物でも、愛玩用に調整された、ぬるっと媚びたような、ああいうものは我慢できない人だった。花なら雑草とか、葉ものでもばさばさっと人を寄せつけぬシダ類や、芭蕉みたいなものが好き」だったと回想しています。

また、ある時、太陽の塔をどうして思いついたのかと聞かれた太郎は、「太陽の塔？あれはカラスだよ」と答えたといいます。ただその理由は言わなかったそうですが、そういえば、塔の頂部にある「黄金の顔」には、鳥のくちばしがあるようにも見えます。

この本にはカラスと遊ぶ太郎の写真も載っていますが、どれも無邪気な少年のようで、あの眼光鋭いというイメージは全くありません。実に楽しそうです。

このカラスは、毎日餌をくれた台所の人やアトリエの人にさえも突っかかり、噛んだりしましたが、太郎にだけはなぜか懐いていたそうです。その様子の一端が窺える太郎の一文があります。

ときどき、じっと見つめ合っていると、  
ふと互いの眼に共感のようなものがひらめく。  
そして何とも言いようのない孤独感を確認しあうのである。



アートン 2004年

自然科学のとびら  
第25巻2号(通巻95号)  
2019年6月15日発行  
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館  
館長 平田大二  
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499  
Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846  
http://nh.kanagawa-museum.jp/  
編集 本杉 弥生(企画普及課)  
印刷 株式会社あしがら印刷